

新型コロナウイルス感染症についてver.7

R2/4/5 院長

★ソーシャル・ディスタンスって何？

世界で一番感染が拡大している米国では、感染予防策として町中では人と人との距離を6フィート（約2m）あけるように指示されていて、この距離のことをソーシャル・ディスタンスと呼んでいます。

★”米一転、マスクを推奨”の記事は大きな間違い！

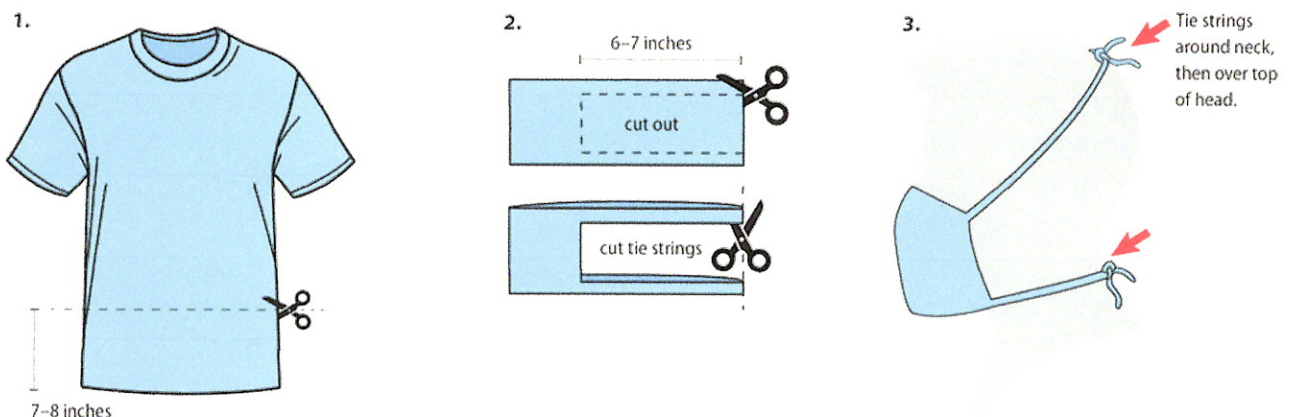
これは4/5の某新聞の記事の見出しです。内容は”米疾病対策センター(CDC)は3日、「外出する際はマスクで顔を覆うことを推奨する」という新たなガイドラインを発表した。”となっていますが、これは英語の原文を読んでいない事による大きな間違いです。

正しくは以下の通りです。

”ソーシャル・ディスタンスを維持することが難しい街中での状況（スーパーや薬局など）においては、**顔を覆う布**を着用することを勧める。・・・**サージカルマスクやN95マスクは医療従事者等のために取っておかないといけないのでこれらを使用することは勧めない！**”

顔を覆う布の作り方で載せています。

Tutorial



★街中でのマスクの着用について

今回の新型コロナウイルス感染症にかかわらず、今までわかっている事実（エビデンス）は、**”健康な人が街中でマスクをつけるにより、感染症が予防できるという証拠はない”**ということです。2009年の新型インフルエンザが流行したときの、日本人のマスクして諸外国を旅行する姿は当時、各国からかなり批判を浴びたものでした。コロナ騒動の初期は諸外国は健康な人がマスクをつける姿はほとんどありませんでしたが、感染患者が増加している現在ではマスクをつける人が増えています。今後エビデンスは変わるかもしれませんが、現在のところは下記のWHO（世界保健機構）が推奨している使用法が標準です。街中でマスクをすること自体悪いことではありませんが、そのために市場でマスクの買い占め等が起き、本当にマスクが必要な医療従事者等への流通が阻害されてしまえば本末転倒です。また、マスクをしていない人に対して厳しい眼差しを向けるも良くありません。物事を恐れすぎるとその不安が他人への攻撃となることはよくあることです。事実を正しく理解し、冷静な行動がこのような時こそ求められています。

WHOの推奨

- ・ 健康な人は新型コロナウイルス感染症を疑う人をケアするときのみマスクを使用。
- ・ 咳やくしゃみが出るときにマスクを着用。

厚労省の推奨

”ご自身の予防用にマスクを着用することは、混み合った場所、特に屋内や乗り物など換気が不十分な場所では一つの感染予防策と考えられますが、屋外では、相当混み合っていない限り、マスクを着用することによる予防効果はあまり認められていません。”

★喘息患者は重症化しやすいか？

私も喘息ですが、この質問はよく聞きますが過度な心配はいらないと思います。CDC(米国疾病対策センター)は中等症から重症の喘息の場合、新型コロナウイルスに罹患することにより病状が非常に悪化する可能性があるかもしれないとしています。これは、インフルエンザに罹患した場合も同様です。コロナウイルスによる肺炎が悪化するという意味合いではありません。普段通りに、必要な治療を継続し喘息自体を安定させておくことが今まで以上に重要です。

★どのような基礎疾患が重症化のリスクか？

最近の研究結果では、1590人のPCR陽性患者の8.3%が重症化し、併存症を最低一つ持っている場合は19.3%が重症化し、併存症を2個以上持っている場合は28.5%が重症化するとのことです。つまり、併存症の有無と多さが重症化に非常に関連するということです。

個々の併存症のリスクとしては、悪性腫瘍が3.5倍、COPD（慢性閉塞性肺疾患）が2.7倍、高血圧と糖尿病が1.6倍それぞれ重症化のリスクが高まります。ここには喘息は入っていませんでした。この結果は大体毎年のインフルエンザの場合と同様の傾向ですが、高血圧がコロナの場合重症化のリスクになるとの結果は今いろいろ議論されており未解決の話題です。

★4/5時点でのまとめ

感染力はインフルエンザと比較して同等くらいと考えられます。日本で第一例が報告され2ヶ月以上経過しましたが、まだ日本全体としては4/4時点で2855人です。ただ、1日あたりの発生患者数が増加傾向です。都市部での感染例は前回お話した3密が関連しています。年齢が高くなればなるほど重症化しやすいことがわかっています。国内の死亡例も70,80歳代に集中しています。今後もまだしばらくは収束の方向には進まないと思われます。重症患者の医療が維持できるかどうかが一番の問題です。神奈川モデルとして先週発表がありましたが、早急に軽症患者をどこでみるのか決めなくてはいけない時期に来ています。

”・・・感染症を封じ込めるのに短期の隔離は不可欠とはいえ、長期の孤立主義政策は経済の崩壊につながるだけで、真の感染症対策にはならない。むしろ、その正反対だ。感染症の大流行の対抗手段は、分離ではなく協力なのだ。”

ユヴァル・ノア・ハラリ